

踏切道の安全対策に関する車椅子利用者との意見交換会　主な意見

令和 7 年 12 月 23 日(火)10:00~11:30
於：中央合同庁舎 3 号館鉄道局大会議室

【車椅子利用者からの主な意見について】

- ・車椅子の車輪がフランジウェイ（踏切上にレールに沿って設けられている溝の部分。鉄道車両の車輪の縁（フランジ）が通過するために必要。）にはまると自力では脱出できなくなるので、その危険を感じながら通行している。特に、簡易電動車椅子は前輪が小さく、その危険が大きい。
- ・簡易電動車椅子の前輪が 2 つ同時にフランジウェイにはまると、介助者がいても脱出が難しい。そうならないために、前輪が片方ずつレールを渡れるよう、レールに対して斜め渡りをしているので、特に自動車の交通量が多い踏切は渡るのに時間がかかり、遮断桿が下りるまでに渡り切れるか不安を感じている。
- ・踏切内での停滞を防ぐためには踏切路面の走りやすさが大事であるため、踏切舗装の凹凸を極力なくしてもらえるとありがたい。
- ・車椅子等が踏切内で停滞していることを検知する AI カメラは有効であると思う。そのため、AI カメラが設置されていることがわかれば安心して踏切を横断できる。AI カメラについては、病院、学校、スーパー等の近くの踏切に優先的に設置してほしい。
- ・スマホアプリが利用できない障害者、高齢者も多い。